

南伊豆歩道は南伊豆町中木を起終点にして入間、吉田、妻良の集落をそれぞれのコースに分けて結んでいる。どのコースも交通の便が良くないので、宿泊を伴う等の余裕を持った計画を立てる必要がある。

また、どのコースも、遊歩道というよりも登山並みのハードな箇所があり、猪をはじめとする危険動物に遭遇する可能性も十分にあるので、決して軽装では行かないこと。登山靴を履き、ストックを持って行った方が良いだろう。携帯電話等の電波が入らない箇所があるので注意が必要。

歩程 約1時間20分

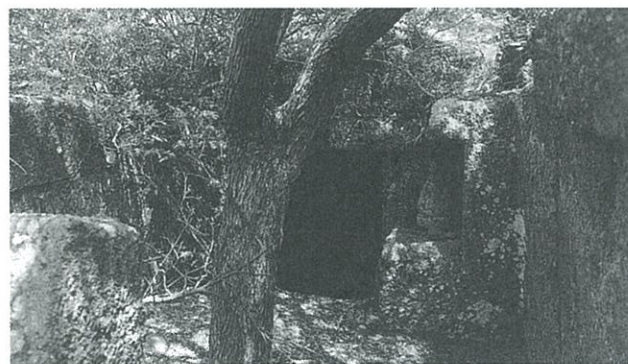
起終点の中木で中木里バス停近くのたみや橋を渡ると南伊豆歩道の案内板がある。石段を上ると無住の宝永軒寺院がある。六地藏の脇を通り中木の集落を左に見て進むと、入間2・9kmの案内標識。右へカーブしてお墓の中の急な坂を上って行く。お墓の中を上る道は、手すりを挟んで左右に一つずつあるが、左側を上がつていく。上り切ると南伊豆歩道の門柱が建っている。振り返ると中木の集落がよく見える。

舗装が切れてジグザグの急な上り坂を上り切ると小さな分岐。案内標識(入間2・7km・中木0・3km)に従い右へとウバメガシの林の中へ上って行く。すぐに道は分かれるが、矢印に従い右へ上る。

急な丸太の坂を上ると、大きな灯籠とベンチのある展望台に到着する。奥石廊崎方面の絵のように美しい海岸線を眺めることが出来る。



▲展望台から奥石廊崎方面を望む



▲念仏洞

さらに先に進むとベンチがあて、ここに念仏洞がある。念仏洞は、岩をくり抜いた石室で、石仏が外に1体、中に2体安置されている。昔、航海の安全を祈って、土地の老人たちが念仏を唱えた場所と言われている。

こら辺一带は、南伊豆町の木にもなっているウバメガシの林で、上り下りのある尾根道である。丸太の階段や案内標識がある一本道になっているので迷うことはないだろう。やがて道は海を左に見てカヤの多い道を進む。入間に近づくにしたがってジオサイトの千畳敷がよく見えてくる。

石仏を右に見た先からジグザグな急な丸太の段を下ると、明るい灌木の中に入る。アオキやコクサギ、ヤマザクラが多い道だ。

ここに南伊豆歩道の案内板がある。広い道を道なりに進む。入間のキャンプ場を右に見て坂を上り切ると、広いバス道に出る。ここを左に進み、少し行った所が入間のバス停・駐車場になっていて南伊豆歩道の案内板がある。ここが中木ー入間コースの起終点である。

先ほどの広いバス道に出た所に戻り、遊歩道方面に曲がらずそのまままっすぐ進むと、伊豆横道三十三観音霊場めぐりの30番札所であり、伊豆88遍路の59番目の札所である海蔵寺がある。宗派は臨済宗。伊豆国七福神の布袋尊も祀られているので、正月には参拝者で賑わう。

また、海蔵寺には、明治7年に入間沖で座礁沈没したフランスの郵便船ニール号の遭難者招魂碑がある。入間の村人は、31人の遺体を収容し海蔵寺に手厚く葬ったという。その後建てられたのがこの慰霊塔で洋風の墓石がひととき目を引く。

